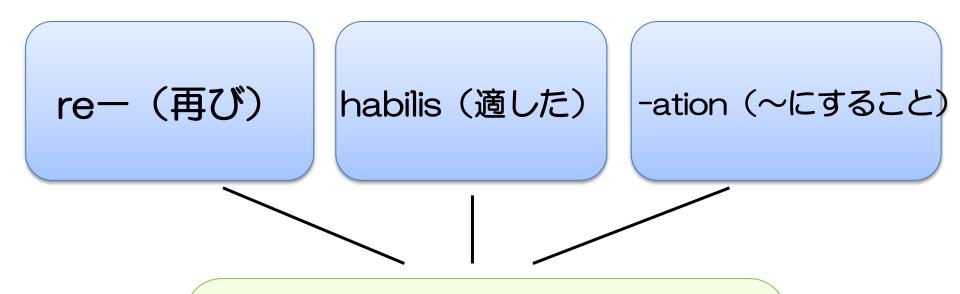
リハビリテーション (総論)

河北医療財団 東京・杉並家庭医療学センター 杉並在宅リハビリ推進会 理学療法士 枌 紀男

リハビリテーションを 日本語に訳すと??

リハビリテーションの直訳



Rehabilitation 再び、適した状態にすること

リハビリテーションの起源

①人権復帰(中世ヨーロッパ) 「王がいったん剥奪した臣下の地位、身分を回 復する、あるいは破門の取り消し」

第一次 • 第二次世界大戦 (1914-1918、1939-1945)

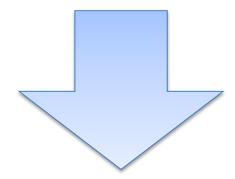
②機能回復(20世紀前半) 戦傷や疾病による障害からの社会復帰

L運動、ノーマリゼーション理念。

③全人的復権(20世紀後半) 機能回復が困難でも普通の生活をする権利。 社会的リハ

日本でのリハビリテーションの始まり

- ・ 日本におけるリハビリは、第二次世界大戦後(1939-1945)に欧米からリハビリの思想や技術が、主に病院や施設に導入された事が始まり、入院を中心とした治療から開始される。
- 理学療法士 作業療法士法制定(1965年)



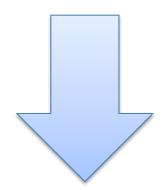
• 利用者、治療者共に、障害された機能(後遺症)の回復が 役割だと考え、後遺症治療に専念していた。 再起

復権

回復

リハビリテーション

再建



更生

その人らしい生活を取り戻す

そもそも、PT・OT・STは、その人らしい生活を取り戻す専門家ではない・・・。

保健・医療・福祉・地域・家族等々、色んな方々の力が合わさってこそ、リハビリテーションは達成される。



地域リハビリテーション

リハビリ専門職について

PT • OT • ST

リハビリ専門職の視点

医師は、病気に焦点を当てて診療する 看護師は、健康や療養に焦点を当てて看護する

では、リハビリ専門職は、何に焦点を当ててリハビリに携わっているのか?



障がいの見方??

国際障害分類 (ICIDH)

- 1980年にWHOが(ICIDH:International Classification of Impairments, Disabilities, and Handicaps)を出版
- 障害を3つのレベルに分け、機能障害 (Impairment)、能力低下(Disability)、社会的 不利(Handicap)と定義したもの。

機能障害



能力低下



社会的不利





能力低下



社会的不利

例えば、脳卒中の患者さん

麻痺が あるから・・



歩けない



居酒屋に

行けない

リハビリ専門職の評価

麻痺が あるから・・



歩けない

ので・・



居酒屋に行けない

筋力評価 MMT(筋力を数値化する評価)

関節可動域評価(関節の動く範囲を数値化)

片麻痺運動機能評価(麻痺重症度を数値化)

感覚評価(様々な感覚を数値化)

•••等々

リハビリ専門職の評価

麻痺が あるから・・



歩けない

ので・・



居酒屋に

行けない

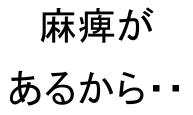
基本動作能力評価

寝返り、起き上がり、座位、立ち 上がり、立位や移動等

日常生活動作能力評価 いわゆるADLです。BIやFIM

•••等々

リハビリ専門職の評価





歩けない

ので・・



居酒屋に

行けない

仕事•外出•交友

社会参加状況

等々

リハビリ専門職のアセスメント

- 病気が治らなくても、障がい、残存機能が良く なる可能性を探す。
- 障害が良くならなくても、代償手段でADL・QOL を高められる可能性を探す。



プラスの視点でアセスメント

麻痺はこれ以上良く ならないけど、身体に 合った装具を使えば歩 けるようになりそうだ な・・・

麻痺はあるけど、 認知運動療法をすれ ば、上手に動けるよ うになりそうだ な・・・ 装具を使っても長 距離を歩けないけど、 車椅子やバリアフ リーのお店があれば、 外食に行けそうだ な・・・



まとめ

リハビリの専門職は障がいを3つの階層に 分けて評価をする

3つの階層をプラスの視点でアセスメント し、アプローチをする

・障がいの程度や時期に合わせて、評価と アプローチを繰り返す

PT(理学療法士)の 得意なアプローチ

- 運動を通した機能回復訓練(運動療法)
- 物理療法(温熱・電気刺激・牽引等)
- 基本動作練習(寝返り・起き上がり・座位・立ち上がり・立位)
- 步行練習
- 介助方法の指導
- ・ポジショニング
- 体幹や足の装具療法
- 基本動作や移動に関わる福祉用具の選定

等々

OT (作業療法士) の得意なアプローチ

- 日常生活の諸動作(食事、整容、排泄、更衣、入浴、移動、外出、家事etc…)、仕事(お勤め、主婦業、犬の散歩、畑仕事etc…)、遊び(趣味活動、他者交流etc…)に対する段階的な訓練(間接訓練・直接訓練)
- 作業活動を手段とした身体・精神機能へのア プローチ
- ・ 作業活動が難しい場合の周辺環境調整(住環 境、福祉用具、周囲の方々の援助etc…)
- 作業活動が難しい場合の代償手段の提案(自助具、作業活動自体の変更・再獲得etc…)

ST(言語聴覚士)の 得意なアプローチ

言語訓練(話す) 音声訓練(聞く) コミュニケーション代替手段の検討・指導 嚥下訓練(食べる)